

アガパンサス

東海教区 女性会
第20期 第4号
発行者 鈴木貴美子
編集 牧 撰
印刷 名古屋めぐみ教会



主 題 「キリストが望んでおられる」 一生かされる喜びと祈り—

主題聖句 キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。
古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

(第2コリント5章17節)



巻 頭 言

東海教区教区長
みのり教会 牧師
三浦知夫



母の日でした。

5月10日に教区の女性会の方々がみのり教会に来てくださり「女性会の集い」を開かれました。私は、開会礼拝を担当させていただいたのですが、その中で98年前のルーテル教会の豊橋伝道のことを話させていただきました。

みのり教会は昨年宣教60周年を迎えたのですが、更にその37年前、1916(大正5)年に、ルーテル教会は伝道始めていたのです。その頃の豊橋の伝道は、自分たちの会堂を持たずに借家を転々としながら続けられました。伝道を開始して6年が経った1922年の資料によりますと、豊橋教会は教会員4名、礼拝出席者4名、その年の受洗者が1名です。当時、全国に22のルーテル教会があったようですが、その中で一番小さな教会が豊橋教会でした。そのような中で伝道は続けられたのですが1927年に3人目の牧師が九州へ転任となり、その翌年、今から85年前の1928年に約12年間続けられた豊橋伝道は中止することが決められ、教会の方々は市内の他教派の教会に移って行かれたようです。

そこにはたくさんの苦勞と困難があり、課題があったに違いありません。その詳しいことを知ることはできませんが、大きな悲しみや痛みがあったということも思います。ただ、それではそこに注がれた神様の恵みが少なかったのかと言えば、決してそうではないと思うのです。そこにも神様のあふれる恵みが注がれており、その中で神様と出会い、イエス様の赦しの言葉を信じ、洗礼を受けられた方々がおられたと、毎週の礼拝がなされ、福音が語られ、祈りと讃美がなされ、喜びと感謝があふれたに違いないということを覚えたいとお話したのです。

その日のお弁当の時間のことです。ある方が声をかけてくださいました。その方は豊橋出身の方で、みのり教会で洗礼を受けられ、今は同じ地区の教会で信仰生活を続けておられます。その方が「今朝、話されていた大正時代の豊橋教会のことですけど、私の母が子どもの頃に、その教会の日曜学校に通っていたのですよ」と懐かしそうにお母様のことを話してくださったのです。そのことをお聞きして、とてもうれしくなりました。98年前の豊橋教会と今のみのり教会とは直接のつながりを持っていないと思っていたのですが、そうではなかったのです。つながっていたのです。母の日の前日に神様からいただいた確かな恵みでした。

「女性会の集い」を開いて

日本福音ルーテルみのり教会

長谷川泰子



5月10日(土)に教区「女性会の集い」が、私達の“みのり教会”で開催されました。この日の参加者は先生・姉妹・男性共々80余名も集められましたことは、お迎えする私達にとってとてもうれしいことでした。

開会礼拝では、以前リラ・プレカリアの講習に行かれ、この日を待ち望んでいた当教会の小杉由子姉が長谷川兄のオルガンに合わせた賛美歌独唱から始まり、三浦牧師の奨励と続きました。そして、この日のために東京から女性会連盟会長の鈴木直子姉が出席されました。鈴木姉から全国女性会連盟についてのお話を聞くことができました。また、教区から「連盟役員選挙について」の小委員会の提案内容について鈴木貴美子姉から報告がなされました。

昼食は色どり豊かな女性向ちらし寿司のお弁当とおやつのプリンを用意させていただきました。皆さん会話しながらの楽しい昼食の時間を過ごされました。



午後のプログラムは、キャロル・サック宣教師のいやしのハーブ演奏を傾聴いたしました。リラ・プレカリア(祈りのたて琴)は病床にある方、さまざまな問題で悩み苦しむ方へハーブと歌による生きた祈りをお届けするプログラムだそうです。キャロル先生の天使の声とも思える歌声とハーブの音色は、きっと、ここに集められたお一人お一人の心に深く届いたにちがいありません。

閉会礼拝は、後藤由起先生の「あなたこそ私をかえりみられる神」というタイトルのお話で、私もこのように告白したい一人でした。



この集会の為に計画された教区役員の方々に感謝いたします。また準備のために、みのり教会の三浦牧師、女性会のメンバーの方々の目に見えない奉仕に、また、男性の奉仕にも支えられて皆様をお迎えできたことは大きな喜びでした。

「ようこそみのり教会へ！」 ぜひまた、いらしてください。

アガパンサスの花が今満開です!!

この花は小さい花が寄せ集まってひとつの花となっています。咲いている姿はたくましく、美しく調和しています。私達女性会のシンボル・フラワー、アガパンサスの姿にこれからの女性会の歩みを託す思いです。「忙しい」「遠い」「高齢になった」「興味がない」などいろいろの思いで「女性会の集い」に足が遠のきがちです。けれど、一堂に会して、共にみことばを聞き、讃美し、祈り、話し合うことで、数えきれない恵をいただけます。女性会の集いに出席して、恵のひとつひとつが今回もわかり、喜びに満たされた、感謝の集いでした。キャロル・サックさんによる「リラ・プレカリア」～祈りの竖琴～には、心癒され、この世の雑念から解放されて、天国?にいるような世界を感じられました。これからもアガパンサスの花のように一つになって、この女性会を歩んでまいりましょう。

(なごや希望教会 菊池幸子)



2014年5月10日(土)みのり教会で東海教区「女性会の集い」が行われ、約80名の姉妹が参加されました。参加してくださった方に感想をお願いしました。

今回の女性会の場所のみのり教会は私の母教会であり、とても懐かしい所です。会堂は各地から集まった女性会員で満席でした。

開会礼拝に続き、「連盟役員選挙方法について」のアンケートのまとめや小委員会の提案の報告を伺いました。その後、女性会で集めたTシャツで作られた布草履と吊るし雛の紹介がありました。以前寄付したTシャツがこのような素敵な草履に変身するとは、と目を見張る思いでした。この布草履は東北の仮設住宅に住む被災された方々の手で作られ売上は復興支援に使われるとのことでした。

午後からはキャロル・サック宣教師によるハーブの演奏がありました。演奏を聴きながら、身も心もリラックスして神様の平安に包まれるような経験をしました。キャロル先生たちは病床にある方や心身に痛みもつ方に、ハーブと歌による祈りを届ける活動をされており、リラプレカリア(祈りの竖琴)と呼ばれるそうです。一人ひとりに「あなたはそのまま価値のある存在です。」と伝える事が目的だそうです。実際に聴きながら、本当に気持ちがよくて、旧約聖書でサウル王に弾いて聴かせたダビデのたて琴もきつとこんな風だったのかなと思いを馳せました。よき一日を与えられ感謝します。

(大垣教会 田口和子)



10日の朝は、爽やかな初夏のよそおいで始まりました。富士教会の花(?)の70代3人組はまるで修学旅行のような気分で、電車に乗り込みました。洋風のきれいなみのり教会に80名近い会員、牧師先生方が集まり、讃美歌が大合唱のように聞こえました。

連盟会長の鈴木直子姉のお話の後、東海教区会長の鈴木貴美子姉と、役員の皆様のリードで東海教区に割り当てられた「連盟会長の選出方法」についてA案B案が提示、説明されプリントにわかりやすく図式で説明されており、改めて、ご苦労がしのばれました。各教会のアンケートに加え、会長及び役員の皆様のご苦労が伝わってきました。日頃、自分達の教会の事ばかり考えてしまいがちですが、この日は動いている女性会を感じました。

合間に、みのり教会の男性奏楽者の伴奏で、女性信徒の方の讃美歌の独唱があり、素晴らしいひと時でした。又、キャロル・サック宣教師によるリラプレカリア(祈りのたて琴)の演奏があり、やわらハーブの音色と歌声が参加者の皆様の心を癒してくれたように思いました。音楽を取り入れた進行はとても良かったと思いました。

(富士教会 砂川理恵子)



礼拝に始まり、礼拝で終わる... 信仰を共にする人たちの集まりって素晴らしいなあ、とあらためて思いました。

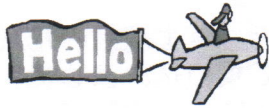
開会礼拝では三浦牧師、閉会礼拝では後藤由起牧師から 力強いメッセージが語られ、明日への希望をもつ喜びで満たされました。

久しぶりに女性会の集いに出席したので、教区女性会に与えられている課題「連盟役員選挙の方法を考えること」が、まとめの段階になっているとは知りませんでした。話し合いをするのかと思っていたので、考えを追いつかせるのが少し大変でしたが...これまで案を練って下さった方々に感謝します。(外野的でなんとも申し訳ありません)

午後の部、キャロル・サック先生のハーブ演奏とお話を聴きながら、そのお働きの高さに頭が下がる思いでした。ここ1年ほどの間に、母と義母を天に送りました。もっと尽くせはしなかったと自分をふがいなく思うことがあります。そんな貧しい者の罪をも洗い流してくれるような優しい音色に包まれ、幸せなひとときを過ごすことができました。

集いを計画し進めて下さった役員はじめ、会場みのり教会の皆様にも心より感謝いたします。

(栄光教会 焼津礼拝所 櫻井國江)



どうぞよろしく！

東海教区社会・奉仕部長
栄光教会 牧師
内藤文子

アガパンサスの花は、私の母も好きな花で、実家（大分県日田）の庭にも、6株ほどあり、大きな花を咲かせています。



夫の新吾牧師と

今日は紙面をかりて、「アンネのバラ」を紹介します。ナチス・ドイツから逃れ、隠れ家でひっそりと生き、最後はガス室へ送られたアンネさん。そのアンネ・フランクのお父さんの悲しみの心を慰めるため 友人から贈られたのがそのバラ。「アンネのバラ」と名付けられました。今は、株分けされ、世界のあちこちで咲いています。日本では、ある教会がその働きをしています。（関心のある方、インターネットで） 咲くと色が変化してきて、輝く黄色とピンクが美しい。

実は私も知り合いからこのバラをもらい育てていました。大きくなったら、株分けして誰かにあげたいな！けれど、大事にし過ぎた？水を上げすぎた？ある時から枯れてきて・・・根にコブができてバラの病気にかかってしまいました。悲しかったけれど、朝に夕に、美しく咲いてくれた思い出は今も心にあります。

現在、島田の「バラの丘公園」にも咲いています。（門を入れて左の丘に） また、こどもキャンプで行った岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」（日本のシンドラールと呼ばれる）の前にも咲いていました

近頃「アンネの日記」の本が、図書館や書店で破られる事件が相次ぎ、悲しい思いをしましたが、事件後、また何人かの方がこの本を寄付するということもありました。すでに60カ国以上で翻訳され、2500万部も発行されているとのこと。アンネの願いがバラと共に、多くの人に伝えられますように。最後になりましたが、社会・奉仕部長になりました。どうぞよろしくをお願いします。



東海教区「女性会の集い」に出席して

女性会連盟会長 鈴木直子

キャロル・サック師と、早朝三鷹の家をでました。以前に3年間も名古屋に住んでいましたのに、みのり教会を訪問するのは初めてで、楽しみでした。会場には、多くの女性会の皆さまが出席しておられ、頼もしく思いました。



今期、連盟では、どうしても考えなければならない問題点を4箇所にとりまとめ、各教区女性会ごとに小委員会を立ち上げて頂き検討。提言として連盟にご提出願うことになっています。東海教区が担われたのは、「連盟役員選挙の方法」についてでした。女性会連盟の長い歴史も学ばなければなりませんし、役員改選がどのようにして為されてきたのか、また事務局の設置を境にして移り変わっていった状況も知らなければなりません。なにより現在、なぜこのことを取り上げなければならないのかを理解しなければなりません。ご負担の大きい部分を担ってくださることに申し訳ない思いを抱いておりました。

教区小委員会では、はやばやとアンケートをお取り頂き、歴史の学びもされたと伺っています。来期の総会に向けてすでに提言を頂きました。この問題は直ぐに解決できることではありません。暫くの時が必要です。

女性会連盟は、「あってもなくても」という評価さえ頂くこの頃です。教会での働きには男性も女性もなく、教会のさまざまな働きに共にかかわれることは素晴らしいことです。が、付け加えると女性会連盟は“となりの人に宣教を”というのが目的の一つです。連盟の働きが教会の力を阻むものではなく、補完しあって教会が元気になっていけるようにと願っています。そのための役員をどのように選出するのか、とても大きな課題だと思っています。



東海教区担当「連盟役員選挙方法」について

鈴木貴美子

東海教区担当の小委員会テーマの「連盟役員選挙の方法」の提案については、先のみのり教会で行われた「女性会の集い」の場で報告させていただきました。また、各教会女性会の会長さん宛てに郵送させていただいております。皆さんからのアンケートへのご意見等を参考に検討してまとめました。また、連盟会長を経験された先輩姉妹のご意見を参考にさせていただくため、東京で話し合いの場を持ちました。今後は連盟、総会等で各テーマについて話し合いがもたれると思いますが、主のお導きにより、女性会として時代に合った新たな方向に進んでゆくことができるようお祈りいたします。



今後の予定

・ディアエア・バザーのお手伝い 7月19日(土)

・連盟合同役員会 9月18～19日 場所；東京 会長出席

・「女性会の集い」10月中旬 場所：未定

・アガパンサ第5号発行 11月下旬



◇編集後記

丁度、アガパンサスが綺麗に咲く頃に編集作業を行いました。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。

(S・M)